

平成28年度 第3回宗像市総合教育会議議事録

【日 時】 平成29年2月21日（火）10時00分から11時51分

【場 所】 宗像市役所 本館3階 第2委員会室

【出席者】 宗像市長 谷井博美
教育委員 中岡政剛
教育委員 宮司葉子
教育委員 白石喜久美
教育委員 石丸哲史
教育長 遠矢修

【その他の出席者】 教育子ども部長高橋勇次、都市戦略室長河野克也、子どもグローバル人材育成担当部長清水比呂之、教育子ども部主幹指導主事阿部龍彦、文化スポーツ担当部長兼文化スポーツ課長磯部輝美、教育政策課長の野仁視、教育政策課指導主事高木陽一郎、教育政策課指導主事守浩一郎、教育政策課指導主事佐々木真理子、秘書政策課長長谷川勝憲、学校管理課長竹下俊史、子ども育成課長村上治彦、子ども育成課社会教育主事薄伸也、子ども育成課社会教育主事河野和道、図書課長本田和徳、文化スポーツ課参事古沢昭一、文化スポーツ課主幹兼スポーツ推進係長高崎浩、教育政策課政策係長廣渡恵三、教育政策課学務係長山本幸江、秘書政策課秘書政策係長飯野英明、教育政策課政策係企画主査船越健樹
※傍聴 なし

【谷井市長】 おはようございます。ただ今から第3回の宗像市総合教育会議を開催致します。本日は、平成29年度施政方針(案)、それから宗像市立小中学校の適正規模・適正配置等の方向性について、宗像市学校教育アクションプラン2017(案)の3つのテーマにつきまして協議をお願いしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【教育政策課長】 各テーマでは、担当からまず説明を申し上げた後に質疑応答、それから協議をお願いしたいと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。それでは早速協議に入らせていただきます。

(1) 平成29年度施政方針(案)について

【教育政策課長】 平成29年度の施政方針につきましても、子育てや教育については子ども基本条例に基づき、家庭・地域・学校・行政がそれぞれの役割を分担し、協働して推進する必要があります。平成29年度の市の2つの大きな事業でございます世界遺産登録それと全国豊かな海づくり大会、これらの事業にも子どもたちは大きくかかわること

になります。6ページの世界遺産登録関連事業といたしまして、子どもたちが未来に向かって、この宗像の素晴らしさを伝えていけるよう世界遺産学習を進めて参ります。29年度では、モデル事業や副読本の作成それから宗像歴史未来塾も継続して実施することとしています。子育て教育関連政策について、妊娠期から産前・産後に至る支援体制のさらなる強化策として妊娠包括支援事業の取り組みや、18歳までの子どもと家庭の心配事に係る相談と切れ目のない支援体制の整備に向けて引き続き検討を進めることとしております。保育所の待機児童対策では、保育施設整備などにより定員を増やすとともに、届け出保育施設への保育用補助の新設などにより待機児童ゼロを目指します。また子どもたちがスムーズに小学校に入学できるように保幼小の連携を一層充実させる体制を整えることとしております。学校教育では、本市の教育活動の特色である小中一貫教育をより成熟させる取り組みを行います。具体的には学園コーディネーターの拡充などにより、「家庭・地域との協働による教育活動」の充実を図ります。加えて、小中学校の9年間を共通の教育課程で学ぶ小中一貫校である義務教育学校の設置に向けて、調査・研究を進めることとします。年々増加する特別な支援を要する児童生徒に対応するため、特別支援教育支援員の増員や、特別支援の授業においてタブレット端末などを活用したICT教育の拡充を図ります。さらに、県が新設を考えている特別支援学校の誘致につきましても全力で取り組むこととしております。ALT派遣事業につきましても次期の学習指導要領の改訂を視野に効果的な事業展開を行いながら、今後の外国語の教科化に対応できる体制を検討することとします。小中学校の空調機整備につきましては、中学校に引き続き小学校特別教室に設置すると同時に新たに小中学校の普通教室にも段階的に設置を進めることとします。また、昨年度から専門家会議で検討して参りました今後の学校規模や適正配置のあり方につきましては早ければ年度内に市としての方針決定後、29年度において地域等と協議を進めていくことといたします。グローバル人材育成につきましては、国際交流の更なる推進を図ることとしまして平成29年度ではグローバル人材育成協議会及びグローバルネットワーク座談会などを活用しまして、参加する大学や高校、企業、国際交流団体、留学生などと協力し、英語の活用機会の創出や市民の国際理解や国際交流推進につながる事業を実施します。青少年海外派遣研修事業の拡充も行うこととしております。人権教育について今年度、宗像市人権教育・啓発基本計画を作成しており、この計画に基づき学校や職場、地域社会、家庭などと連携・協働して、人権に対する理解が深まるよう人権教育や啓発を行って参ります。スポーツの関係につきましては、新たな事業としてスポーツサポートセンター事業に取り組むこととします。この事業は市内のトップチームや大学、民間スポーツ施設などと連携し市民のスポーツ・運動活動を多面的に支援していくというもので、その拠点を市民体育館の中に設置することとします。また、大規模国際大会のキャンプ地誘致につきましても、新たに立ち上げるスポーツコミッションと連携をしながら引き続き積極的に取り組んでいくことといたしております。以上が平成29年度施政方針案の教育関連の部分についての説明になります。

【教育子ども部長】 エアコン設置については、中学校の特別教室は既に終わっておりまして、来年度小学校の特別教室に着手する予定です。普通教室にはありませんので緊急避難的にエアコンを使ってくださいと学校に指導しています。今回、普通教室にエアコン設置に着手したいと考えております。普通教室のエアコンは2学期に入って工事を進める、来年の夏には普通教室の稼働が少しずつ始まっていくことになろうかと思っております。ここで問題になるのがエアコンの使い方です。家庭でもエアコン、学校でもエアコンの環境で生活をしてよいのかという懸念もございますので、新年度になりまして、エアコンの使い方について教職員や保護者の意見等も踏まえながら一定のルール作りをしていきたいと思っております。整備は3年から5年くらいかかると考えております。エアコン設置につきましては、昨今の異常気象で非常に温度が高い日が授業中にもみられるということで調査しましたところ30度越えが何回かありました。今まで以上にこの高温の中で子どもたちの授業が続くことが予想されますので、特別教室への設置が来年度で終わりますので、モデル的に2校で普通教室に設置し各校に順次設置します。

【教育政策課長】 ICT教育について電子黒板もほぼ各校学年1台、ほぼ達成しつつあります。後はタブレットの導入です。今、河東西小学校と日の里中学校に導入して3年経過しておりますけれどもコストも高いのですが、タブレットの効果は学校現場から好評を得ております。自由ヶ丘小学校で民間の事業の方の会社の方からタブレットをご提供いただいて特別支援学級で使っております。前回ご覧いただいたかと思っておりますが非常に効果があるということでしたので、来年度は特別支援学級を中心に、タブレットを導入していきたいと思っております。普通教室にもそれを借りてくればタブレットの活用ができますので、来年着手をさせていただくということになります。

【谷井市長】 ただいま説明がありましたように29年度の施政方針につきまして私の3期目の仕上げということでもとめさせていただきます。ALTの派遣事業についてです。次期学習指導要領が改訂されることから、私としてはこの国際化グローバル人材の育成につきましては重点事項に入れており、子どもたちの英語教育、国際的な感覚を付ける教育を充実していきたいと思っております。

(2) 宗像市立小中学校の適正規模・適正配置等の方向性について

宗像市小中学校適正化検討委員会からの中間報告

～ 略 ～

(3) 宗像市学校教育アクションプラン2017(案)について

【阿部主幹指導主事】 宗像市学校教育アクションプラン2017については昨年の成果と課題を踏まえ、宗像市の現状、教員研修のあり方の見直し等を含め変更しております。学習指導要領が改正され平成32年度からは新学習指導要領で10年間の日本の教育が新始まることとなります。赤字で示したところが大きく変更したところです。真ん中の列が教育

活動、左側がそれを支える学校関係者の教員研修、右側がそれぞれに対応する事業となっております。真ん中ですが、「確かな学力をはぐくむ教育活動の充実」の部分の成果等は、全国学力調査で宗像市が全国平均のプラス5ポイントということで、成果比を昨年度も上げておりましたが、すでに公表したと通り、今年度は小中ともに算数、数学、国語、全国平均を上回ることができましたけれども、なかなか5ポイントまでというところの数値までは達成することはできませんでした。ただ全てで全国を上回っているということ、それから経年変化を見ますと、小学校も安定した中でずっと推移を続けております。中学校は多少上下があるんですけども、昨年度同様、今年度は全てにおいて全国平均を上回ることができたということで、上昇傾向にあるということで、良い傾向にあるんじゃないかなと思っているところです。そして何よりも特筆すべきは、今までずっと学校間格差、地域格差。これが宗像市の中では非常に大きかったのですが、底上げができて、地域間、学校間格差が徐々に解消されているというのが大きい成果だと思っています。これを受けまして、来年度も引き続き、確かな学力の育成ということで、力を注いでいきたいと思っておりますけれども、特に赤字で書いた部分につきましては、新しい学習指導要領に求められているところがございます。何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかというところで、よくアクティブラーニングという言葉が出てきますけれども、実は学習指導要領の中にはアクティブラーニングという言葉はありません。ただその言葉だけがひとり歩きしないように本質を見極めながら、先生方に力をつけていただきたいということで、ある意味アクティブラーニングの授業づくりを推進していくというのが、大きな柱になっていくでしょう。続きまして、豊かな心については、非常に課題の多いところがございます。各学校に自己評価をした結果ですが、実は小中ともに一番低かったのが道徳、特別活動で学校教育活動が充実していない、非常に課題が多いという学校の声を聞きました。そして豊かな心についての成果指標は、全国学力調査の質問紙の中でも、自尊感情に関する項目について全国平均以上を目標にしているのですが、宗像市の子どもたちは自尊感情が低いとなっています。これはずっと続いていました。やっと平成28年度に小学生は戻りましたけれども、中学生は全国に比べて非常に点数が低い。これをなんとかしなきゃいけないということが大きな課題です。特に中学校。全国平均から比べるとマイナス10ポイントです。学校の中で何かを自分たちで話し合っただけで決まりを決めているという意識は中学校の時期には少ないのです。これは大きな課題です。従いまして、来年度は、この豊かな心につきまして力を入れていきたい。学校の日については、話し合い活動を重視した特別活動の公開を義務付けました。それから自尊感情を高めるためボランティア、地域の社会体験が基本になってくると思っておりますので、地域にどんどん出て活躍できる子どもたちを育てていきたいということで、ボランティア等の充実をさせていきたいと思っております。続きまして、健やかな体ということもございます。学校の自己評価では、体力向上に向けて地域の方々の協力を得ている人ものことを活用して取り組んでいるかというのは、十分ではないとのことでしたので、本年度は力を入れていきたいと思っております。成果指標は全国の

体力の合計点が全国平均以上としていますが、小学校5年生が唯一全国平均を上回ったのですが、それ以外は残念ながら今年度も全国平均以下になっておりました。ただ、福岡県自体の子どもたちの体力が向上したこと、そして宗像市の子どもたちも実は点数は平均以下ですけれども、種目によってはかなりの伸びを見せております。上昇傾向にはありますので、力を入れていきたいと思っております。特に、スマイルキッズプログラムという事業を利用しまして、いろんな地域、宗像の財産であります大学や企業や施設等を活用して子どもたちの体力の向上に努めていきたいと考えているところです。学校経営の充実というところですが、これも次期学習指導要領に基づいた部分で大きく変更しておりますけれども、今、国で進めているのは、学校づくりと地域づくりを両輪でやっていくということです。宗像市は地域と連携、協働して、第Ⅱ期中小中一貫教育基本方針に基づく取り組みを行うと共に、学校運営評議委員会を充実させて、地域と共に成長していくことができるような学校を作りたい。そのためにも学園コーディネーターという地域や学校間との連携をつなぐような教員の配置を来年度は1名増やして6校区に配置します。

【谷井市長】 従来から子どもたちの体力が低いですね。学力があっても体力が低い。体力を上げようということで教育委員会が努力されているのは分かりますが、まだ結果は出ていないということですね。もうひとつ残念なのは、子どもたちの豊かな心を育む教育活動の中で報告がありましたが、あまり自信がないのですかね。自信をつけさせるということは、ソフト的な問題で個人差もあるから難しいのでしょうか、どう分析したらいいのですかね。

【阿部主幹指導主事】 子どもたちがそう答えているので、その通りだと思います。もっと宗像の子どもたちは地域に出て、当然地域から叱られたりすることもあるでしょうけれども、認められること。君たちがいたから助かったとか、よく頑張ったねとか、そういう認められる体験が少ないのではないかと思います。学校の中でいろんな授業やっていますけれども、これからは教育の場は学校だけでなく地域も一緒に含めた教育の場としますので、地域と一緒に活動をしなから、地域の方々にも認めていただくということを通して、自尊感情を高めることが、一番の近道かなと思っています。

【石丸委員】 私もいろいろ現場に行きまして、自尊感情が高いという学校はあまり見たことがありません。質問紙に自信があると書いたら恥ずかしといった部分もあると思います。それ自体が自信がない証拠なのですが、そういった自己を出せるか出せないかということが重要な表現能力だと思います。育つ機会を見つけてあげるというのが重要で、学校だけじゃなくて、家庭や地域の方から、例えばあいさつとかで「ああ、よかった。元気がいいね」とかいう地域の方々や見守り隊の方からでもおっしゃっていただくと、だんだん自信が出てくるのかなと思います。そういう意味では阿部主幹指導主事のおっしゃる通りだと思います。

【中岡委員】 子どもたちは大人が作った道を歩いて行く、用意した道を進んでいくことが非常に多いと感じております。そのため、自分で道を探していくことに、

非常に不安を感じています。つまりは自信がない、自分の生き方というものに自信がないということが、一番自尊感情が低いところにつながっているのではないかと思います。想像性とか、自分で問題解決していくとかそういったところを、小さなころから経験して自分で解決していくということを、意図的に仕組んでいかないと自尊感情を高めるということは、これからも難しいのではないかと思います。

【谷井市長】 地域の子どもは地域が育てるという政策で、例えば学童保育も地域で見ようと。今現在吉武地区がやっていますけれども、赤間小学校もやるという方向で動いています。学校の中での、例えばボランティア活動で地域に出て行って、やっぱりいろんなことを学ぶ。もう一つは国際化、グローバル化の中での自分の考え方をやっぱり具現化する、出していくということができないと置いていかれると思います。ですから私は地域やコミュニティが一生懸命子どもに対する教育をやっていますので、是非、学校教育の中でも地域と学ぶことを考えてもらえればと思います。地域の人も一生懸命やっていますので学童保育の事業だってやっていける。ただ預かるだけじゃなくて、いろんな行事で子どもたちとのふれあいなどもやっていますので、先ほども申しましたが、カリキュラムなどで制約があると思いますが学校教育や社会教育の中で地域との連携を密にやれるような仕組みを考えてもらいたいと思います。

【教育政策課長】 それでは時間となりましたので、その他協議などございますか。

【谷井市長】 ないようですね。それでは平成28年度第3回総合教育会議を閉会します。どうもありがとうございました。